

## 三潴町における就業型態別農家の経営実態

中島健吾・上原三郎・内田昭修  
(福岡県立農業試験場)

NAKASHIMA, K., UEHARA, S., UCHIDA, A.  
Studies on Farms which classified by the 9 Types of Family Labor  
in Paddy Mizuma District

## はじめに

従来、農家を大数調査した場合、その分析指標としては経営耕地規模とか農業投下資本額などが用いられてきた。しかし、今日農業労働力の減少、兼業化、農業後継者など経営主体の問題が生じている。そこで、農業労働力の担い手である経営主とあつぎ予定者の就業実態を指標として農家の分類を行なう経営分析法を試みた。

なお、三潴郡三潴町生岩地区に国の事業として「クリーク統廃合モデル圃場調査工事」が、33haの面積を対象にすすめられていて、これに関係している農家および地区の農家 147戸の経営実態調査結果を分析の素材とした。

## 1. 就業型態からみた農家の性格分類

日本の農業が家族労作経営である以上、経営主、あつぎ予定者が農業労働力の担い手であるので、農家が農業とどの程度積極的にとりくんでいるかを経営主とあつぎ予定者の就業実態により把握することができる。そこで、経営主とあつぎ予定者の就業実態にファミリーサイクルを加味して、次のように農家をA, B, Cに大区分し、さらにそれぞれを3つに小区分した。

A, 農業に積極的にとりくんでいるタイプ

- a, 経営主が若いタイプ
- b, 経営主が割りに若く、あつぎ予定者が学生であるタイプ
- c, 経営主、あつぎ予定者とも農業に従事しているタイプ

B, 早晩農業に力を入れるかどうかの問題になるタイプ

- a, 経営主は農業、農外に半々従事、あつぎ予定者は学生であるタイプ
- b, 経営主は農業、あつぎ予定者は農外に従事しているタイプ

事しているタイプ

- c, 経営主は老令、あつぎ予定者は農外に従事しているタイプ
- C, すでに第2種兼業農家であるタイプ
  - a, 経営主は農外、あつぎ予定者は学生であるタイプ
  - b, 経営主、あつぎ予定者とも農外に従事しているタイプ
  - c, あつぎ予定者がいないタイプ

Aタイプは経営主の年令が30~60才程度で、経営規模も大きく、水稻プラスまとまったアルファ部門(家畜、裏作の高度利用)を導入している。経営主は年間250日以上農業に従事し、また現在農業に従事しているあつぎ予定者も250日以上農業に働いていて、農外にはほとんど就業していない専門的農家が多い。

Bタイプは、経営主の年令が40才前後の層では農業に150~200日、農外に150~100日従事し、年令が50才以上の層では経営主は農業に200日程度従事しているが、あつぎ予定者は恒常的職業についていて、農繁期だけ農業を手伝う程度である。このタイプは経営を拡大するか、あるいは縮小するかはあつぎ予定者の農業に対する意欲いかんである。

Cタイプは経営主、あつぎ予定者とも恒常的職業についていて、農業は婦女子に依存しているタイプである。このタイプは経営規模が小さく、近い将来農業を縮小するか、やめるタイプであろう。

## 2. 就業型態別農家の経営実態

就業型態別農家の経営概要を示すと第1表のとおりである。

将来も農業と積極的にとりくむタイプは46戸(全体の31.2%)、早晩農業に力を入れるかどうかの問題になるタイプが42戸(28.7%)、すでに第2種兼

業農家であるタイプが59戸（40.1%）となっている。

農業労働力をみると、Aタイプは2.5～3.6人、Bタイプは2.3～4.1人、Cタイプは1.5～2.4人の農従者数である。AタイプとBタイプの農従者数はあまりちがわないが、Aタイプはそのほとんどが年間200日以上農業に従事し、農業労働力の中心は若年層であるのに対し、Bタイプは年間200日以上農業に従事している人は少なく、労働力の中心は婦女子か老人であり、若年層は農外に出ている。Cタイプの農従者の大部分は年間100日以下の農従で、労働力の中心は婦女子である。

経営耕地規模についてみると、この地区は純水田地帯で、経営耕地の大部分は水田である。Aタイプは120～160a、Bタイプは100a前後、Cタイプは40a前後の規模である。最近5カ年間の水田の増減をみると、あまり売買は行なわれていないが、水田を購入している農家はAタイプ、売っている農家はB、Cタイプに多い。

農機具の所有状況を見ると、モーター、揚水機は各農家とも1～3台所有しているが、動脱は水田面積が50a、耕うん機、乾燥機は60a、土入機は80a以上の農家がそれぞれ所有している。また動力製糞機は農閑期の婦女子や老人の現金収入源として、農家の3分の1程度に導入されている。自脱コンバインやバインダーを導入している農家は現在10戸程度であるが、今後さらに導入されるものと思われる。

農機具資本の大きさを時価評価額でみると、Aタイプで50～65万円、Bタイプで24～34万円、Cタイプで7～12万円程度となっている。

土地利用状況を裏作についてみると、この地区の裏作物の主なものは小麦、いぐさ、たまねぎで、いちごが最近導入されている。裏作土地利用率をみると、Aタイプで60%、Bタイプで50%、Cタイプで40%程度である。その作付内容を見ると、小麦の作付が最も多い。しかし小麦の作付は年々減少している。次に多いのがたまねぎで、この3カ年で2倍の伸びを示している。いちごはAタイプの労働力の多い農家に5～10a程度導入されているが、今後さらに伸びる作物の一つであろう。

農業所得は作物、家畜、わら加工の各所得からなっている。Aタイプは87～130万円の農業所得をあげているが、そのうち水稻以外のアルファ部門からの所得が25～43万円占めているのに対し、Bタイプ、Cタイプはそれぞれ65万円、30万円の農業所得をあげているが、その大部分は水稻からの所得で占められている。各タイプとも多かれ少なかれ農外所得を得ているが、これを農業依存度（農業所得のうち農業所得の占める割合）でみると、Aタイプは80%以上の高い依存度を示しているのに対し、Bタイプ、Cタイプはそれぞれ50%、30%前後と低くなっている。

第1表 就業型態別農家の経営概要

就業型態別	戸数	農従者数		農業労働単位(ME)	経営耕地面積	農用建物時価評価額	農機具時価評価額	土地利用状況					概算農業所得	農外所得	農家所得	農業依存度	
		農従100日以下	農従100日以上					水稻	小麦	いぐさ	たまねぎ	裏作利用率					
A	a	16	0.9	2.3	2.0	146.7	858.0	545.1	144	47	10	20	59.1	1,099.3	211.6	1,311.0	83.8
	b	15	0.6	2.1	2.0	115.0	681.9	776.5	115	42	7	15	59.3	869.9	155.9	1,025.8	84.8
	c	15	0.1	3.5	3.1	163.5	1,298.8	1,140.0	162	58	7	17	56.3	1,291.8	72.9	1,364.7	94.7
B	a	13	0.6	1.7	1.5	97.1	317.7	555.0	97	25	8	14	49.2	652.0	200.3	852.3	76.5
	b	19	1.2	1.7	1.7	100.8	337.4	434.9	99	17	6	14	54.7	648.6	654.2	1,302.8	49.8
	c	10	1.5	2.6	2.3	90.7	528.0	464.9	90	28	3	9	46.1	665.8	824.0	1,489.8	44.7
C	a	32	1.9	0.4	0.8	44.4	353.8	250.3	44	8	3	7	42.7	290.2	571.1	861.3	33.7
	b	19	1.8	0.6	0.8	42.3	256.8	193.0	41	8	3	6	44.5	290.2	950.9	1,241.1	23.4
	c	8	0.7	0.8	0.6	36.2	167.5	117.5	36	—	—	4	13.6	257.2	48.2	305.4	84.2

注：数字は平均値で表わした。